

俳句で表そう

俳句は、日本独特の短い詩の形です。五・七・五の一七音にこめられたあなたのものとりえ方です。なにか、むずかしそうに取っつきにくいと感じる人もいますが、俳句を作る楽しさを知ればあなたの言葉がとぎすまされてきます。あなたのこころもみがかれてきます。ここでは、俳句作りのポイントをしょうかいします。

季語を入れよう

俳句には、季語と呼ばれる季節を表す

言葉を必ず入れます。季節を表す言葉とは、季節感のある風物のことです。その季節らしいものをおりこむこと。

「湖の子歳時記」から季語を選んでみましょう。(例)

夏 五月〜 七月

小休止 かい立てのさき 雲のみね

秋 八月〜 十月

くれないの 全山うつす 秋の湖

冬十一月〜 一月

甲板を わがもの顔の 冬しよ軍

春 二月〜 四月

かもの子の 波にただよう 終航式

○こんな言葉は使わないほうがよい

「みる」「きく」「におう」「ふれる」「あじわう」などは、目、耳、鼻、手、口であなたがしていることだからわざわざ書かなくてよいのです。

また、「うれしいな」「かなしいな」「たのしいな」「きれいだな」「さびしいな」などの気持ちを表す言葉も使わない方がいいね。あなたが見て、それをどう感じているかを「見たら きれい」では、ありふれているでしょう。

○たとえを使ってみよう

「〜のようだ」「〜みたいだ」のように、たとえをつかってみるといい作品ができます。

○船ならではの言葉を使ってみよう

うみのこの生活のぶたいには、俳句に使えそうな言葉がありますね。

「かんぱん」「ドラ」「タラップ」「カッター」「スクリュー」「ひき波」「港」「さん橋」「湖岸線」「汽笛

「えり」「出港」などなどすてきな言葉を選んでみよう。

言葉を選んで、じっくり考えて、一句作ろう。

季語

湖の子歳時記

夏	初夏げし つゆ 夏の夕 かみなり 朝焼けにじ
夏	夏の雲 夏の空 夏の月 夏の星 夏の日 カッター
夏	西日 南風 夕立 タななぎ 夕焼け ふん水 夏の湖
夏	夏休み 冷ぼう 日焼け 雲のみね あゆ ほたる
夏	ボート 水遊び ヨット あめんぼう かせみ
秋	秋深し 秋風 秋しぐれ 天の川 きり つゆ きく
秋	秋の湖 名月 かかし 秋の山 赤とんぼ 秋の虫
秋	すいかもみじ 草もみじ 秋祭り くり
秋	まんじゅう しゃげ ばった わたり鳥 はぎ すずき
冬	寒波 とうじ 冬の朝 北風 ふぶき 冬田 こがらし
冬	雪氷 しも柱 冬の湖 息白し かぜ 冬の波 冬の山
冬	コート せき 手ぶくろ かれ野 冬しようぐん 冬休み
冬	マスク 雪おろし かも かいつぶり 落ち葉 冬がれ
春	花冷え 残り雪 うめ桜 つくし やなぎ ふじ 早春
春	春雨 春一番 すずめの子 ちよつ はち あぶ 雪やなぎ
春	たんぼば 若草 菜の花 わらび つばめ 立春 春の風
春	春の湖 たこ 花見 若あゆ 終航式